



Vol. 12

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」サイト (nantokashinakya.jp/)では、東日本大震災の被災地を支援しているプロジェクトメンバーの活動状況について紹介しています。

PROFILE

1979年北海道出身。高校時代、100メートル泳ぎで11年ぶりに日本記録を更新する。2000年、シドニー五輪女子400メートルメドレーリレー銅メダルを獲得。04年のアテネ五輪を最後に現役を引退。現在は、スポーツコメンテーターとして活動する傍ら、子どもの水泳教室や「ワールド・スイム・アゲンスト・マラリア」などの社会貢献活動にも積極的に取り組む。「なんとかしなきゃ! プロジェクト」著名人メンバー。

北海道出身なのに、なぜ水泳だったの?と聞かれることがあります。きっかけは、陸上選手だった母親がけがをしてしまい、リハビリで始めた水泳についていったこと。何だか水の中で遊んでいるのがとても楽しかったんです。それがなければ、もしかしたら、まったく違うスポーツをしていたかもしれない。そんな一つ一つの小さな“出会い”の積み重ねが、今の私の人生につながっています。

現役時代はとにかく泳ぐことに必死だったのですが、引退後、これまで応援してくれた皆さんに何か恩返しがしたいと強く思うようになりました。そして今、ライフワークとして取り組んでいる活動の一つが「ワールド・スイム・アゲンスト・マラリア」※です。それまで試合で世界を飛び回ってきましたが、どこも“水”が確保できる先進国。マラリアに苦しむアフリカの子どもたちの話を国際機関で働く元水泳選手の先輩から聞き、そんな現

実が存在するなんて想像もしていなかったのが驚きました。これまで私を育ててくれた水泳を通じて、少しでも誰かの役に立てるのなら、これほど幸せなことはない。日本各地の水泳イベントで、講演や募金活動などを続けています。

数年前には、テレビ番組の撮影で大洋州のツバルに行かせていただきました。地球温暖化の影響で海面上昇が進み、島が沈んでしまうかもしれない。人々は見えない不安と闘っていました。でも一方で彼らは、自然と共存し、家族に囲まれてとても幸せそうな生活を送っているようにも感じた。日本にはない“良さ”も発見できたような気がします。

当たり前ですが、水泳は“水”がないとできないスポーツです。私は国際協力を通じて、水があることがどれだけ幸せなことかを実感することができました。私たちは水の恵みに感謝しなければならない。そのこと

行動の先にあるもの

スポーツコメンテーター 田中 雅美

TANAKA Masami



photo by Shinichi Kuno

を日本の子どもたちにも伝えていきたいです。

ボランティアをやっていることを人に言うか言わないか、賛否両論あると思います。でも私は、言葉にして発信することが大事だと思うんです。そうすれば、賛同してくれる人も増えて、新しいアイデアが生まれるかもしれない。そして、何をすればいいかわからない時は、とりあえず周りの人にそう話してみる。そこから始めればいいんだと思います。そのことで、“あなたにしかできないこと”が見つかるのではないのでしょうか。

※マラリア予防の蚊帳を購入するため、世界規模で開催されるチャリティー水泳イベント。

「なんとかしなきゃ! プロジェクト」は、開発途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクトです。ウェブサイトを中心に、さまざまな国際協力のカタチを提案していきます。詳しくはこちらから→ nantokashinakya.jp